

1 事業名

平成27年度教育事業 「体験の風をおこそう」運動協賛事業
「テンパークまつり 2015 親子宿泊体験」

2 趣旨

国立岩手山青少年交流の家（テンパーク）を広く地域に開放し、当施設の様々な活動プログラムなどの体験を通して、施設の理解と利用の促進を図るとともに、震災復興に立ち向かっている県民の元気回復に寄与する。

3 期日

平成27年9月26日（土）～27日（日） 1泊2日

4 参加者

小学生以下の親子 73家族234名
（大人：男38名・女66名，中学生：男2名・女3名，小学生：男50名・女39名，未就学児：男15名・女13名，未満児：男5名・女3名）

5 連携・協力

岩手大学地域連携推進機構

6 日程

(1) 内容

【1日目 9月27日（土）】

15:00	16:00	16:30	18:00	19:00	19:30	20:30	22:00
受付	オリエンテーション	親子レクリエーション	夕食 (バイキング)	休憩	科学実験教室	入浴 自由時間	就寝

【2日目 9月28日（日）】

6:30	7:00	7:30	8:30	8:45	9:00	15:30
起床 洗面 清掃	つどい	朝食 (バイキング)	清掃	退所 点検	見て・聞いて・ふれて 体験「テンパークまつり」自由参加	

(2) 指導者

岩手大学地域連携推進機構	准教授 生涯学習部門長	今井 潤 氏 岩手大学学生
国立岩手山青少年交流の家	主任企画指導専門職	桑原 玲子
	企画指導専門職	中田 春輝
	企画指導専門職	鎌田 信浩
	事業推進係長	田口 康宏
	事業推進係	及川 未希生
	事業推進係	高橋 知也
		法人ボランティア

(3) 企画のポイント

親子の交流を楽しむことと参加家族同士の交流を深めることをねらい、職員による親子レクリエーションをプログラムに取り入れた。また、幼児から小学校高学年までの子供たちが楽しめるように岩手大学地域連携推進機構に依頼し、科学実験教室を企画した。2つのプログラム

ともに、飽きることなく楽しむことができるようにプログラムの時間を設定した。

(4) 広報のポイント

当施設のある滝沢市をはじめ、盛岡市とその近隣の市町村の小学校に、それぞれの学校の児童数分の募集要項を配布した。また、昨年度の本事業への応募やみちのく「体験の風をおこそう」運動事業「親子で楽しむ 自然体験 in 冬のテンパーク」へ応募いただいた全家族にダイレクトメールを送付した。

さらに、本施設のホームページにも募集要項を掲載し、事業広報の拡大を図った。

(5) 運営のポイント

参加家族がゆとりをもって準備や移動ができるように、プログラムの日程に余裕をもたせた。それぞれのプログラムの時間は長くなり過ぎないように設定した。

オリエンテーション、ベッドメイキング、部屋の清掃、朝のつどいなど、青少年教育施設での生活についても親子で体験することにより、楽しい時間を過ごしながらも規律ある生活ができるようにし、参加者の施設に対する理解を深めるようにした。

7 成果とその普及

当施設職員による親子レクリエーションでは、限られた時間の中で多くのレクリエーションを体験することができ、参加者は充実したひと時を過ごすことができた。参加者からは、「親子でゆっくりとレクリエーションや実験教室を楽しむことができました。他の家族の方とも知り合うことができ、よい交流になりました。」「他で経験したことのない楽しいレクリエーションや科学実験教室に子供もテレビのないことなども忘れ、心から楽しい時間を過ごすことができました。今年はお友達もできて、より貴重な体験となったことを喜んでいきます。」「思ったより多くのファミリーが参加していて驚きました。所員やボランティアの方々のおかげで楽しく活動することができました。時間設定も余裕があり、追い立てられ感がなく、小さいお子さん連れのファミリーもよかったと思いました。」という声が聞かれた。今回の体験が今後の親子の交流の手段や家族間の交流のきっかけの一つとなった。

岩手大学地域連携推進機構による科学実験教室は、特に子供たちに大変好評であった。保護者の方からも、子供たちと楽しく学ぶことができた満足いく感想が寄せられた。

宿泊体験をして、保護者の方からも「青少年交流の家はとてもすばらしい施設だった。また親子で参加できる企画があったら参加させていただきたい。」「テンパークは楽しいからまた来たい。と子どもが言っています。今後も我が家の恒例行事になればよいと思っています。」という感想が寄せられた。プログラムと青少年教育施設での生活体験が、施設の理解と利用の普及につながっていくものと期待できる。

8 今後の課題

参加対象が小学生以下の親子ということもあり、幼児の参加も多かった。今後の利用促進を図るうえでは、幼児の利用を想定した施設設備の整備も必要になってくる。



親子レクリエーション



親子レクリエーション



科学実験教室